

2020年米国大統領選挙考察

—アメリカは何を選択したのか？—

慶応義塾大学総合政策学部教授
中山 俊宏

- * 2016年の大統領選挙との比較
- * アメリカの自画像を壊したトランプ
- * 当初からバイデン支持のスタンスに立つ
- * 日本人はトランプの実体を誤解した
- * アメリカの保守主義について考える
- * トランプ主義のエッセンスとは何か
- * トランプ再選だったら分裂は決定的に
- * 合意形成の可能性もあるバイデン政権
- * バイデンにあるプラスのイメージとは
- * バイデン政権が目指す普通の国への帰帰



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

本日は慶応義塾大学の中山先生に初めておいでいただきました。1967年のお生まれで、アメリカのサウスダコタ州の高校を卒業され、その後、青山学院大学で博士号を取得され、それから研究員生活をされた後、津田塾大学、青山学院大学を経て、現在、慶応義塾大学に勤めておられます。アメリカの政治の問題はどなたをお呼びするのがいいか、適切な方がうまく見つからなかつたのですが、中山先生は高校で1年、交換留学で行かれる前、5年間、お父様の関係でアメリカにおられました。ご本人はどうおっしゃるかわかりませんが、現地経験があるということはお勘があるということだと思われま

す。客観的に幅広く新しい大統領と新しい政権

についてお話しいただきます。それではよろしくお願いたします。（拍手）

2016年の大統領選挙との比較

中山 どうぞよろしくお願いたします。ただいまご紹介にあずかりました中山でございます。

柴生田理事長からアメリカでの交換留学の体験ということでご紹介いただきましたけれども、その関連で一つお話しさせていただきますと、私が留学していたのは83年から84年で、レーガン大統領が再選を狙っていたときでした。交換留学というのはアメリカの普通の家族の中で1年間過ごします。こっちは選べなくて、アサインされた家族に送り込まれるわけですが、私が送り込まれた家族がいわゆるレーガンデモクラ